

しない。日本人が海外に出るとどうなのでしょう。例えばアメリカに、ブラジルに移住します。韓国、朝鮮では海外に移住した人たちが海外同胞と言います。だけど日本人は海外に出ると、日本人ではないのです。日本民族からも相当距離を置かれるのです。日本社会はそこが面白いところで、留学とか駐在で、まだ日本という陸地と結びついてる人は日本人だけど、移住とか移民という形で日本を断ち切った人たちは、もう自分たちの仲間ではないような見方をするのです。だから「日系人」という言い方をするのは、そこにはもう日本を捨てた人のようなニュアンスがあります。ブラジルの日系の方が、雇用体系の制度の変更によって、他の外国の方に比べると入国も労働も優位な形になり、それで戻ってくるわけです。例えば群馬や浜松に日系ブラジル人の方が多くいますが、多分日本社会は彼らを同胞として見ていない。

そういった意味でも、朝鮮半島の在日の方々の存在は、日本社会にいろんな意味で変化とか光とか、ある時は聞いたりするのですが、そういうものを与えてくれる存在だと思ふのです。この日本社会を面白くした部分がたくさんあるではないですか。音楽、スポーツ、それは社会の中で、集団的に言えば非常に不利な中で、一人一人の力量を示す人たちが、皆さんの先輩とか前の世代の方に多かったわけですね。

くだけた話をする、僕が韓国、朝鮮の人たちを見るようになったきっかけは、高校時代に一緒に演劇をやっていた素敵な女性がいたからです。彼女は日本名を名乗っていましたが、高校時代は在日の人だとは思っていませんでした。それがある時同窓会の席で、彼女がキムという名の在日韓国人だったことを知りました。一度彼女の家に呼ばれたことがありました。高台にあつて、市内を一望できる豪華な家で、入ると大きな貯水槽があり、玄関には龍が描いてあるし、「何じや、こりや」という、日本人のセンスとは全く違う家に連れて行かれました。親族が集まっていた焼肉パーティだったのですが、その時親族

品です。その20分は皆さんのためになると思ふので、ぜひ注目して見てください。

後で質疑応答が10分と聞いておりますが、もう少しあったほうが良いかと思つています。全然緊張することありませんし、僕の朝鮮半島に対する知識は皆さんより劣るかもしれない。ただいろんなことを体験してきたのは確かなので、その体験に基づいた話をしていきたいと思ふます。

もう質問、何でもいいですよ。「北と南、どっちがビールおいしいんだ？」と言ったら、僕は少なくとも5年前までは、圧倒的に朝鮮のほうがおいしいと、南のビールは最近クラフトビール、すごくおいしくなってきましたよね。だけど、5年ぐらい前までは、やはり平壤でテドンガンメクチュを飲むほうが、圧倒的においしいと思ひました。一度平壤から帰ってきて、次の日にソウルに入ったことがありますが、ソウルでビールを飲んだら、まだ全然駄目だな……この点だけはもう全然北のほうがすごいと思つたことがあります。

の方に、皆さんもご存じの1993年にベルリンオリンピックのマラソンで金メダルを取った孫基禎さんの話を聞きました。その方は孫さんとかどこかで関係があったのかもしれません。「えっ、そんなことあったの？」と思ひました。多分これが、私が朝鮮半島に関心を持つきっかけになったと思ふのです。

回 記者は第一志望ではなかった

若干前後しますが、1979年に韓国の朴正熙大統領が暗殺されました。当時、僕は世界情勢には興味なかったのですが、駅のキオスクで新聞一面に「朴正熙大統領暗殺」という見出しを見た時に、なぜか鳥肌が立つような、「これからアジアはどうなってしまうのだろう」と感じました。その後の光州事件に至るまでのことを、学生として新聞で読んでいました。

それですぐ記者を目指したかというところではなく、就職するに当たってマスメディアはTBSしか受けていなかったのです。というの、どちらかというと僕は権力に対して物申すとか、スクープを取

つてやるみたいな、ぐいぐい行くタイプではないし、ずうずうしく人のプライバシーに入り込んでネタを取るみたいな「そういう人間には俺はなれないな」と思っていました。元々は一般企業をずっと受けていたのです。

僕はほんとに駄目な男で、高校で1回落第して4年やっています。受験で浪人しています。そして大学も1年留年して、見事に3つダブっているのです。そうすると一般企業はほぼ入れてくれません。当時は4年生の10月が就職の面接解禁日でした。そんなことを守っている企業はほとんどなくて、唯一守っているのは、今と逆でメディアだったのです。だからメディアに行く人というのは、ハナからジャーナリスト、編集者、記者になりたいと思っている人か、夏休みの間に商社も銀行もメーカーも全部落ちて、もう行くところがない人だったのです。ある意味それが当時のメディアの面白さでもあった。「メディアなんか、へっ」と思っている人たちも、背に腹は代えられぬという感じ

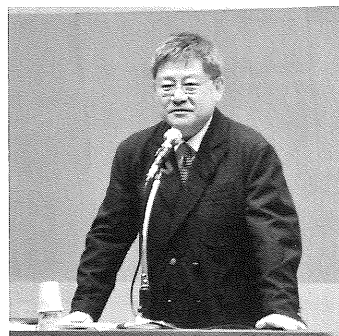
日本と朝鮮半島 取材現場から見てきた歴史的課題

講演要旨

日下部正樹さん

(TBS記者)

2024年11月3日 東京 東医健保会館



回 はじめに

皆さん、こんにちは。TBSの日下部です。といっても、今月65歳になって40年間勤めてきたTBSを間もなく離れます。僕は何かジャーナリストという言葉が、背中がもぞもぞするような気がするのですが、記者と言います。40年間記者をやったことをとても誇りに思っているし、その記者生活の中で、朝鮮半島情勢というのは非常に大きな比重を持っていることを昨日改めて思い直しました。

この40年間、朝鮮半島と取材でどう付き合ってきたかを、思いっくまお話ししたいと思います。この良い天気の日曜日にわざわざここまで来て、「何だよ」と思う人もいるかもしれない。だけどその中にちょっとしたでも、朝鮮半島についてああいう見方をする人間がいるのだと気付いていただければうれししいし、途中で映像を見てもらいます。「報道特集」でオンエアしたもので、20分ぐらいあります。一緒に仕事をしている30代の、「報道特集」の中では非常に若いディレクターが作った作

回 朝鮮半島への関心

まず皆さんは、いろんな時に民族ということを意識すると思ひます。そこが一般の日本にいる若者と違うところだと思ふのですが、日本人は、多分日本にいる限りは日本民族だなんて、一部の右翼の方々を除けば、意識しないで生きているわけです。だけど多分あなたたちは、いろんな場面で民族というものを意識する。それは、一部の人からは異端視というか、日本社会においてちよつと違う集団と捉えられがちかもしれない。けれども、僕はいつもこう捉えています。在日の人たちは日本社会を構成する非常に重要な要素。そういう在日の人たちがあつて、今の日本があると思うのです。ある程度日本社会にインパクトを与え続けて、皆さんのうちのおじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、そしてあなたたちがいるわけです。それは日本社会にとって大切なような気がするのです。

多様性と言葉で言つてしまえば、簡単なんでしょうが、日本人は日本にいる限りは、民族を意識

一般企業、メーカーを受けていた時は、二十何社受けて2次まで行ったのはほんの数社でした。ところがTBSからはもう毎晩のように、「1次通りました」「2次通りました」と。広告代理店もどんな仕事をするのかよく分からないまま受けていて、「はい、次行ってください」と連絡が来る。話が逸れましたが、自分で自分のことを分かっているとは思っていただけです。僕は「メディアなんか絶対向いてない」と思って就職活動してきたのに、背に腹は代えられないというので受験したら、どんどん次の通知が来る。結果的にはほぼ全部から内定を頂きました。ということとTBSに入りました。「ああいう業界にいる人と付き合っているといけないよ」みたいな業界に入ってしまったわけですが、でも多分、そういう人がうちの業界にはいっぱいいたのだでしょうね。

回ソウルとピョンヤンから

1985年にTBSに入って報道に配属されて、ニュースを読めとか、ラジオニュースをやれみたいな

ことを言われました。その1年目の夏に御巣鷹山の日航機墜落事故がありました。翌年86年の夏休み、ぜひ韓国に行きたいなと思ってソウルに行きました。それが、僕が初めて朝鮮半島に足を踏み入れた時です。

その前から僕は、慶應大学に渡辺吉裕先生という語学の先生がいらして、その方に韓国語、朝鮮語を若干学んだのです。それで88年のオリンピックの1年前に、ラジオニュースの取材で1カ月ぐらい韓国に滞在しました。渡辺吉裕さんに「こういうことを取材したらいいですか」と尋ねて、紹介していただいたのが、李良枝さんという「由熙」という小説で芥川賞を取った在日の作家でした。当時ソウルで韓国舞踏を習ってらして、その時の様子などを、ラジオですから音声で取材しました。皆さんぜひ李良枝さんの本を読んでみてください。日本に在日として生まれた葛藤を、当たり前だけれど僕とは全く違う視点で書かれています。ソウルに行った時に李良枝さんにお会いしてました。一度は直前にロンドンで取材を

していて、ロンドンは古いエレベーターも多くてガタガタするのですが、ソウルに行くとエレベーターに乗ると、もうスーッと揺れもなく昇り降りする。その話を李良枝さんにしたら、何かその話に感激したらしくて、「私の国もそこまで来たのね」という感じで、その時の表情がとても印象的でした。

お酒が大好きで、日本では中上健次とも仲が良かったし、今で言う無頼派の作家です。当時僕のことを「正樹ちゃん」なんていう人は李良枝さんただ一人で、「大きい声で正樹ちゃんとか言わないでくださいよ」と言うのだけとお構いなしでした。それから数年して李良枝さんは亡くなりましたが、さらに僕は韓国のことを知りたいと思ったのです。

一方で、平壤に初めて行ったのが1990年です。皆さんもご存じかもしれませんが、自民党の金丸さんと社会党の田辺さんが朝鮮に入ったのです。「金丸・田辺訪朝団」と言われています。当時は政治部の記者だったので、それに同行したのです。一般の日本人がなかなか入

れない国に入れる。しかもあの時はチャーターでJALの特別便が平壤に飛んだわけです。もう本当に歴史的な動きでした。JALの機長さんは平壤の飛行場に無事着陸させるために、中国民航の飛行機のコックピットの後ろに座らせてもらって、何度か平壤の空港の様子を調べたそうです。JALが金丸・田辺訪朝団と我々を乗せて平壤に着陸した時、機長さんが感極まったのか、「我々は歴史的な一歩を踏み出した」という機内放送をしたのです。「すごいぞ、これは」と、何か無我夢中で取材しました。

取材団も、朝鮮の国内体制のことは全く分からない。どこまで自由に取材できるか分からないから、テレビも新聞も全て共同で取材して、共同で執筆しようということになって、その時初めて新聞記事を書かされたのです。「この部分はTBSが担当して」と無茶なことを言う。それまでの話し言葉「ですます調」が突然、書き言葉の「である調」になって、それも良い思い出として残っています。

僕はその時に、同行記者団の副

幹事をやらされていました。それは偉いことでも何でもなく、当時は金日成さんがトップで、記者団としてのお土産を運ぶ役とか、あとは記者団のお弁当を手配する役などです。高麗ホテルというところに泊まったのですが、夜食にカレーを頼んだら、メニューにも在日の方の提案、アイデアが入っているのですね。昔僕たちが家庭で食べていたグリーンピース入りのカレーが出て、もう記者団は、「懐かしい」と言

って、おかわりを何杯もしたのを覚えています。これが、最初の北朝鮮との出会いです。

回北京と上海でのスクープ

僕は朝鮮半島情勢に関心があって、特にソウルの特派員になりたいと言いつけたのですが、なぜか香港特派員になってしまっただけです。ずっと政治部について、主に社会党を担当していました。民放では野党の担当は大体2人です。他のメディアはどうかというと、NHKは5人、朝日新聞も5人、読売新聞は6人ぐらいいて、こんなの勝てるわけがない。有能な記者ならここで「何

くそ」と思って、「NHKとか読売とか朝日には負けないぞ」と頑張るのだけれど、僕は「勝てるわけないじゃん」と思ってしまっていた。

そういうやる気のない記者だったのが香港に行ったら、当時まだ返還まで時間があつたせいか、NHKも記者は1人でした。読売や朝日もみんな記者1人です。そうするとがぜん勝てる気がしてきて、初めて「俺、記者として、何とかやるんじやないの」と感じたのが、香港でした。4年ぐらいいて、日本に帰るのかなと思ったら、北京支局に行ってくださいとなって「えー、またソウル行けないの?」という感じで白かった。というのは、北京には朝鮮の大使館もあるし、韓国の大使館もあるのです。そこで、いろいろな人と出会いました。

僕は早稲田大学出身ですが、北京の稲門会って、本当にすごいのですよ。早稲田大学に留学していた中国共産党の相当な人たちもいっぱい集まってきた、その中に韓国の企業の駐在員で早稲田大学卒業の方がいて、その方々と非常に仲良

くなりました。そこからいろんな交流をして、韓国の大使館の人とか企業の人を紹介してもらえました。

韓国の人たちとお酒を飲むと本当に大変なのは、皆さん爆弾酒とか水爆酒ってご存じですか? とにかく一気飲みの儀式があつて、それを北京でもやっていて、特に一番悪いのは、皆さんの中には軍隊に行つた方もいるから、軍隊の一気飲みって何でやるかご存じですか。今は絶対そんなことはしませんが、当時は軍靴を使ってみんなで一気飲みして、それが絆になったのだとか。もうそういう古い考えには僕もついていけないけれど、中国のカラオケで「よし、靴脱げー」みたいな感じでそれを始めるのです。靴にウイスキーやビールを入れて、それを飲むわけです。僕は断固として拒否しました。最後は「あんたは軍隊行っていないからいいよ」と言われて免除されました。そんな思い出があります。

北京での朝鮮との交流も、今だから言えることがあります。基本的には朝鮮の人たちは、外国人と1人では会いません。しかし、何度

か差しで会ったことがあります。彼らとの連絡は、私書箱を使ってです。私書箱に「今度こういうことでお話を聞きたいです」と書いて入れると、会うことができるのです。会うのも相当慎重でした。ただ当時は、これから日朝関係が前に進むのではないかとという背景がありましたから、今とは全く違う空気だったのです。日本の記者、外交官、学者といった多様な方たちが北京で朝鮮の外交官、あるいはまた違う組織の方たちと会っていたことは事実です。僕もよく会いました。必ず向こうは2人で、こちらは1人です。

こういうことを言うと語弊がありますが、2対1だと少々不安なので、出かける時は日本人スタッフに「今日はこういうことで行っているから、もし僕から連絡がなかったらテイクノートしてね」というようなことを言っていたのです。もちろんそんなことはなく、非常に有意義な話を聞くことができました。

金正日総書記が2000年に、極秘で中国を訪問したことがありますが、これは韓国の一部の新聞がす

つば抜いたのですが、日本のいわゆる朝鮮半島ウオッチャーたちは、そんなことあるわけないという論調だったのです。僕のいた支局は、どうも要人が乗った列車がここ数日間、北京にきているというところまでつかんだ。たまたま一つ確証が欲しい、そうしないと書けない、という時に、いつもお会いしている朝鮮の方から僕の携帯に電話がありました。「なぜこのタイミングで？」と思うでしょう。そこで「今朝鮮の要人が北京にいらつしやいますか」と聞いたのです。そうしたら、「日下部さん、私の口からそれを答えられるわけじゃないですか」と言ったのです。つまり否定しなかった。いろいろ考えた末、「よし、ゴード」ということで、「金正日総書記、北京訪問」と報じたのです。

その後、要人を乗せたと思われる列車が既に出たという目撃情報も取ったので、「金正日総書記、訪問。既に帰路についたか」というリポートを出せた。日本メディアの中ではスクープでした。

それから間もなく、今度は金正日さんが中国にきた時、上海にも

行った。当時TBSというかJNN系列は、上海に支局を持っていなかったのです。すぐ上海に飛びました、どうも上海に行ったという噂がある、車列が上海市内で目撃された、という程度で全く確証が取れません。とにかく上海じゅう車を飛ばして「車列はどこだどこだ」みたいな感じです。イタリア政府代表団の車列を半日ぐらい追いかけていて、「あれ、違った」ということもありました。

もう一回ホテルからやり直そうというところで、そばで待機していたら本当に偶然車列が通って、何かのタイミングで一時停止。その時に光の加減で中が一瞬見えた。すごい、来ているのを見てしまった。周りに他の記者はいない。それで「金正日総書記、上海訪問」という記事を書きました。その日の夜、他の場所でも偶然カメラマンと一緒に大きなホテルの2階を歩く金正日さんの姿を捉えて、これも大スクープになって全世界のメディアに配信されました。

その時の興奮はもう本当に表現できません。朝鮮側のトップを捉え

るのはそれくらい大変なことでした。

記憶に残った2つの取材

念願のソウル特派員になったのは15、16年前になりますが、わずか1年で「報道特集」のキャスターとして戻ってこいと言われました。ソウルにいたいと言ったのですが、会社にはなかなか逆らえず、東京に戻りました。しかし「報道特集」にきたことによって、逆にいつでも朝鮮半島情勢を取材できるようになりました。

記憶に残った大きな取材が2つあります。1つが、これは2012年ぐらいでしょうか。第二次大戦に日本が敗れると、当時朝鮮にいた日本人はみんな日本に退去して来るわけです。満州にいた日本人たちも朝鮮半島を渡って日本に帰ろうとするわけですが、38度線が引かれて、釜山から日本に渡ろうと考えた多くの避難民が南に行けなかった。足止めを食って、現地で亡くなった方も多く、いまだに2万人ぐらいの遺骨が朝鮮側に残っていたのです。

日本政府は本当に冷たくて、この2万人の遺骨については朝鮮と国交がないからと言って、ほとんど動いていません。そんなことはないのですよ。朝鮮戦争の時にたくさんアメリカ兵が朝鮮側で亡くなっている、その遺骨と遺品の取り扱いについてアメリカは板門店を通じて収集するなど積極的にやっているわけです。日本という国は民間人の犠牲者については冷たくて、ほったらかしです。それはやはりおかしいと思うので、いろんなルートを使わずっと朝鮮側に取材依頼をしていました。

そういった問題に取り組んできた日本のABC、朝日新聞、そしてTBS。僕は主に朝鮮総聯の幹部の方を通じてお願いをしてきた。それが通じて、2012年にその3社だけを入れるということ、平壤に行きました。龍山という墓地にあることを、事前に朝鮮側も調査してくれました。その調査の筆頭に立ったのが、元在日、岡山出身で帰国した方です。龍山墓地も何度か移転しているのですが、日本人と思われる墓地はここだと特定

して、そこに連れて行ってもらいました。

この問題については朝鮮側は非常に協力的で積極的でした。「朝鮮側の思惑は結局は金だ、それに乗せられているんだ」と批判的な報道をした一部の日本メディアもありましたが、そういうことを言うメディアほど「英霊」だとか「かつて日本のために亡くなった方たち」みたいなことを言うくせに、こういう時だけは我々を批判するのです。

北朝鮮に残された日本人遺骨の問題は、その後何度も取材しています。けれども、日朝交渉で1回か2回取り上げて、結局進展なしです。いまだに2万人の遺骨が祖国に戻れないまま残っている。皆さん、ぜひこのことは覚えておいてください。

朝鮮半島を通じて日本に逃げてきた方たちも、たくさん取材しました。子どもを連れだした女性が多かったです。子どもを朝鮮側で亡くして埋葬してきた人たち、もう90歳を過ぎています。敗戦国ドイツも、もっと大規模な、つまり東ヨーロッパに、ドイツ人が移民などで元々歴

史上多くいたわけですから。その人たちが、ナチスドイツが負けて、ドイツに戻る時に、ポーランドやチェコで散々虐待を受けたのです。虐殺された方もたくさんいました。

しかし満州や朝鮮から避難してきた日本人の方が、徹底的に虐殺された例は、僕の取材の限りはないです。もちろん昨日まで散々「俺がご主人様だ」というようにこき使われていた。だからいろんな意味で憂き晴らしをしたい人たちはいたけれど、朝鮮の方たちは、基本的に一対一になると守ってくれたという証言が多いです。こういう証言はほとんど消えていきませんが、そのことは忘れないでください。

朝鮮の人たちが優しくかったという話をする、ジャーナリストと自称する人たちが、「それは日本の統治がうまくいっていたからである」ということを言い出します。しかし、そんなことはないのです。それは民族性であるとか、あるいは個々の問題だと思っています。それが「報道特集」の仕事で記憶に残るものの一つです。

もう一つが、李鶴来さんという在

日韓国人がいらつしやいました。B級戦犯として一度は連合国側の法廷で死刑判決を受けた方です。彼は捕虜収容所の監視業務をやっていた。当時の日本の軍隊はビンタ教育だったから、李鶴来さん自身も日本の軍人から殴られて、教育はこうやるものだとか教わってきた。連合国側の捕虜の中には、言うことを聞かない人もいるわけです。そういう人たちにビンタを振るった。これは確かです。しかし連合国側から見れば殴打は虐待なのです。それで彼は戦後、連合国側に捕らわれて死刑判決を受けて、シンガポールにあるチャンギの刑務所いたわけです。

結果的には、告発した連合国側から、死刑にするまでではないだろうと減刑を求める声があつて無期懲役となり、その後、今の池袋のサンシャインシティ辺りにあった巣鴨拘置所に移送されます。当時「巣鴨ブリズン」と言われた、日本が連合国に統治されていた時の戦犯収容所です。そこに11年間服役し、1956年に釈放されました。

問題になるのは、なぜ日本人と

して囚われたか。どうして捕虜収容所の監視業務をしたのか。日本の軍隊の中には「捕虜になるくらいなら死ぬ」という半強制ルール、「捕虜になることは恥である」という文化があった。連合国側には「懸命に戦って捕虜になったのは英雄だ」という、全くの文化の違いがある。日本軍から見れば連合国の捕虜は、負けて相手側の捕虜になっただけというもんじゃないやから、誇り高き日本軍人は世話をしない。そんなものは植民地人にやらせればいいと言って、台湾人と朝鮮人から捕虜監視業務を募集して、半分強制的に朝鮮の各地域に割り当てたのです。李鶴来さんはその中の一人でした。

戦後解放されたのに、判決を受けた時は日本人だったから、日本人として日本で刑務所にいるということ。李鶴来さんが初めて日本に来たのは巣鴨ブリズンに入った時でした。なのに日本人として刑の執行を受けた。李鶴来さんが言った「都合のいい時は日本人、都合の悪い時には朝鮮人にされる」という言葉もぜひ覚えておいてください。李

鶴来さんはもう亡くなりましたが、B・C級戦犯になった朝鮮人の方はたくさんいます。これが、僕が「報道特集」に来て、ぜひ皆さんにも覚えておいてほしい2つ目の話です。



回「記憶 反省 そして友好」

随分時間がかかってしまいました。これからVTRを見てもらいます。これは現在（いま）の問題です。戦時中に朝鮮半島からたくさん労働者が集められました。それを強制連行と言う人もいれば、徴用だと言う人もいれば、そんなの任意で自分でやってきたと言う人もいます。事実としては、全て

当てはまるのです。強制連行もあった。政府は、それをいろんなパターンがあったのだと言って強制連行のイメージを薄めようとしているわけです。それに乗っかる右側のメディアや人たちは、全部が強制連行じゃなかったからといって、全部強制連行はなかったという言い方にすり替える。一つでもグレーな部分があるとゼロにしてしまう。それが今の日本社会の一部にあるのです。

まさにそれを象徴する動きが、群馬県の「群馬の森」というところでありました。戦争中は日本の男子の若者はみんな戦場に捕らわれて、すると当然日本じゅうが人手不足で、日本国が立てた労働動員計画を全然満たすことはできない。その穴埋めのために台湾や朝鮮から人々が集められた。そういう時に日本の役人たちは何をやるか。少しでも数字に近づかせるために、どんなことでもするのです。強制的に連れて来るのは当たり前で、当時の内務省の役人も、拉致のごとく引張つてくると報告しているのです。それを一切無視して、全部が全部強制連行ではなかったという

論理をもって強制連行と言うなどいうのが、今の日本社会の立場です。VTRの中でも、そのことに触れています。これは僕が作った映像ではありません。30歳ぐらいになつたばかりのお母さんディレクターが作ったものです。なぜ若いディレクターがこれに取り組んだのか。彼女がやりたいと言った時に「何で？」と聞いたら、「戦争を知る世代がこの慰霊塔を建てようと言ったのに、戦争を知らない世代が何でこの慰霊塔を壊すんだ」ということを言っていました。

それでは、ご覧ください。

《映像から》

膳場（番組司会者）…特集です。群馬県にある朝鮮人追悼碑が、反対を押し切って撤去されました。

日下部…この碑は戦時中、戦争遂行のために日本で働かされた朝鮮の人たちを弔うものでした。なぜ、どのような思いでこの碑は建てられたのでしょうか。

その追悼碑は、木々が生い茂る公園の隅っこに、ぼつんと建っていました。案内板もなく、私などはいつも迷ってしまいます。正面に

は、「記憶 反省 友好」の文字。戦時中、群馬県で亡くなった朝鮮人労働者を弔う碑です。

戦争による労働力不足を補うため、植民地だった朝鮮半島から、多くの人々が労働動員されました。日本の戦争遂行のために駆り出されたのです。その数は少なくとも66万人、群馬県も例外ではありませんでした。追悼碑は20年前に建てられた時から、何も変わっていません。それを取り巻く状況が変わったのです。かつて設置許可を出した群馬県が、今は追悼碑の存在自体が著しく公益性に反するとして、行政代執行による撤去を決めたのです。

1月28日、行政代執行前日、多くの人が集まっていました。花を手向ける人、碑文を洗い清める人、それぞれのやり方で別れを告げました。

突然、現場の空気が変わりました。多くの警察官が動員され、碑を取り囲むように壁を作ります。今、この追悼碑の前に、各右翼団体のグループが乱入してきました。A…恥を知れ。撤去しろ。

日下部…追悼碑を巡っては、10年ほど前から「反日的だ」「碑文の内容はでたらめだ」と一部団体から執拗（しつよう）な抗議が、県に寄せられてきました。追悼碑建設に関わった1人は怒りを抑えながら、訴えます。

石田（市民団体）…腹が立つけど、右翼との対応はほんとに避けてください。それは私のほうからお願いしています。

日下部…午後3時、殺伐とした空気の中、有志による集いが始まりました。

石田…何とこんなに、しかも遠方からも大勢の方が集まっていたのだの、ほんとうにうれしいです。ほんとうにありがとうございます。

日下部…警察官の壁の向こうには、右翼団体のメンバーが集まって奇声を上げています。こちらの市民団体としては、静かにこの追悼碑を見送ったかったのではありません。非常にも、非常に難然とした雰囲気になっています。

B…情けねえな、おまえらよー。ばーか、ばーか。

小山（ナレーター）…県立公園の一

角に、追悼碑が完成したのは2004年。当時の群馬県知事や、自民党の元県連幹事長らが追悼の言葉を寄せる様子が、映像にも残っている。

C…心から敬意を表すると同時に…小山…追悼碑を建てたのは、戦時中の朝鮮人の労働動員について史実の掘り起こしを進めてきた市民団体だ。メンバーの1人、矢中幸雄さん、80歳。矢中さんは、日本人も含めて60人近い人たちの証言を聞き取ってきた。

矢中（市民団体）…戦後30年も40年もたつていても、やっぱりあんまり話しながらなかった。「もうあの経験は俺たちで十分だし、そんなことも伝えることもないし。もう俺たちもそれを思い出すのもいやだよ」って、そういう人たちが多かったですね。日本人の、ほんとうに私たちも嫌な経験なんですけども、ポツリポツリと話してくれました。そういう人たちに、ほんとうに感謝しています。

小山…聞き取りを記録していた映像が残されている。朝鮮半島出身の

男性は、日本で働けば十分な食事に酒も出ると勧誘されて船に乗ったものの、全くのうそだったと話す。

朴（証言者）…こつち来て最初ご飯くれるの見たら、全然話が違うんだね。ふた月、三月目入ったら、めまいがするの。腹が減っちゃって。飯食わさないから。こんな小さなくあんが、今の500円の玉ぐらのの三つ。みそ汁はちっとんべ（少し）。

D…初めからそうだったの？
朴…初めからそうですよ。

小山…過酷な作業現場で弟が亡くなったこと、終戦後は朝鮮人だからと補償から外されたこと、カメラにはそうした話に静かに耳を傾ける矢中さんたちの姿も映っていた。市民団体の代表、猪上輝雄さんが証言を聞く理由を語っていた。

猪上…今そういうことを聞いておかないと、もう永久にこれは分からなくなつて、歴史から消えちゃうんですよね。だから、どのくらい残せるか分からないですけど、こういう事実を全部書き留めたり、いろいろな資料として残して。それを今日日本人が知らない、今後の日本と朝

鮮との関係も、うまくいかないんですよ。年取った私たちの責任でもあるけれども、日本の若い人たちにそういうことを伝えていきたい。

小山…市民団体が収集した古い文書や証言を、冊子にまとめた。群馬県内では、少なくとも18カ所、4600人近い朝鮮の人々が、強制的に動員されたとしている。

E（証言者）…家族との別れも交わせずに、連れてこられました。

F（証言者）…警察がついて回り、逃げることはできません。

小山…長年放置されていた朝鮮人の労働動員の実態。史実を掘り起こすうち市民団体は、追悼碑の建立を目指すようになった。動員が国の政策として行われた以上、碑は公有地に設置することが重要だと考え、群馬県に場所の提供を求めたのだ。

村山富市元首相…多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して、多大の損害と苦痛を与えました。

小山…植民地支配への謝罪や反省を表明した、戦後50年の村山談話。加害の歴史に向き合う機運が生まれ、2001年、群馬県議会は全

会一致で追悼碑の建立を認めた。碑文の内容は、県や外務省も交えた2年がかりの話し合いで決まった。ナレーション（追悼碑文の一部を朗読）…政府の労働動員計画により、多くの朝鮮人が全国の鉱山や軍需工場などに動員され、尊い命を失った人も少なくなかった。過ちを繰り返さない決意を表明する。アジアの平和と友好の発展を願うものである。

小山…ところが2014年、県は碑の撤去を求めた。

ナレーション（群馬県知事コメント文の一部を朗読）…追悼碑の存在自体が論争の対象となり、憩いの場である公園にふさわしくなくなったことから、更新を不許可とする判断をしました。

小山…背景には、碑文は捏造（ねつぞう）などという、歴史修正の動きがあると見られている。2012年ごろから、ネット上で設置を許可した県や県議への抗議の呼びかけが広がっていた。実際、県には400件以上の電話やメールが寄せられている。さらに公園の前で、碑の撤去を求める団体と公園の職員

らが、小競り合いになる事態も起きている。県は、碑の前で行われた式典での参加者の発言を問題視し始めた。それは、碑文ではあえて使わなかった、「強制連行」などを含んだ発言。これが政治上の目的には利用しないという、碑の設置条件に違反しているとしたのだ。市民団体は言いがかりだとして訴訟を起こし、8年余り闘ってきた。しかし、最終的に追悼碑は公園にあるべき中立的な性格を失ったとして、県の判断は適法という判決が下された。判決を根拠に、県は碑を強制的に撤去する行政代執行を決定。費用の三千万円を市民団体に請求している。

知事の定例会見では、記者たちから代執行を決めた理由を問う質問が相次いだ。山本知事は、最高裁で判決が出たことを繰り返し強調し、法治国家として肅々と行うと述べた。

日下部…一方であの碑を巡っては、「あの追悼碑は反日的である」「書いてある内容もでたらめじゃないか」「どこに犠牲者がいるんだ。証人を出してみろ」みたいなグループが

いますね。この意見については知事、どう思っていますか。

山本…太群馬県知事…私はそういう考えは持っていない。あの碑が作られた目的、それについては県としても規制はしておりません。その目的の下でしっかりと運営されていれば、こういう問題はなかったかもしれないが、さっき言ったような理由で、今や公益に反する存在になつてしまった。それについて裁判で、民主的なプロセスでしっかり議論した結果、最高裁で判決が出た。

小山…あくまで撤去の判断は、政治的な集会が行わないという条件違反があったから、そして既に論争の対象に発展したものを、公園に放置することが著しく公益に反するからとした。

山本…歴史認識の問題ではなくて、そもそも決めたルールが破られたというところが理由なので、この碑を撤去するということが、歴史認識をねじ曲げるみたいなことは、私の中では全くつながっておりません。小山…しかし、撤去を支持する人たちの反応は。

て、群馬県との交渉を通じて「群馬の森」に追悼碑が建った時、どんな思いを。

矢中…これが始まりかなっていう。これからだと。何とかこれで人々に知らせる形ができたことだと。これを伝えていくのはやっぱり日本人だよなっていうのを、みんなそう思ったと思います。私もほんとにそう。これがスタートだと思いました。

日下部…この追悼碑ができた、その意志みたいのをどんどんつなげていく。

矢中…ほんとにそういうふうにいければいいですね。それがほんとにこんな形で現れたってことに對して、ちょっと悲しいですね。ほんとに悲しいですね。ごめんなさいね。ほんとに残念です。

膳場…取材をした三宅ディレクターです。歴史観や政治的な立場が違ふ人がいるというのは、これはもう当然のことですけれども、そこで生じる対立を避けるために記録を撤去するということを続けていたら、史実が後世に伝わっていかないので、この動きに懸念を覚えるのですけれども、取材していて何を感じ

じましたか。

三宅…証言を聞き取ってきた矢中さんですけれども、戦後すぐに資料をあちこちで燃やしていたという日本人の証言も聞いたと言います。こうして論争になってしまった今の状況を見ると、後の世代が史実を検証できるように、記録はきちんと残しておくことがいかに大切かというのを、実感させられます。市民団体は今回の県の判断が正しかったのかどうかは、10年後20年後の日本の社会の在り様が明らかにしてくれようと言っています。

碑を建てた人たちが願い、目指してきた過ちを繰り返さないこと、そして友好を、これからの世代が実現できるかどうか問われています。日下部…裁判で群馬県の主張は認められたのですけれども、判決が撤去を命じたわけではないのです。撤去するかどうかの判断は、あくまで県に委ねられたわけです。ただ撤去作業の進め方は一つにしても、この判決を記者として厄介払いをしたという印象が、どうしても拭えません。

ここで一つ、個人的な話をさせていただきますと、私の祖母は関東大震災の時、暴行を受ける朝鮮の人たちを見ています。また九州の炭鉱で育った私の母は、朝鮮人労働者がいかに差別されていたかを、生前話していました。ですから何もなかったとか、でたらめだという声を聞かされた時に、身内をうそつき呼ばわりされているような気がしてなりません。

膳場…特集でお伝えしました。

《映像おわり》

基本的にはこれは日本人の問題なのです。日本人が何でこんなことになってしまったのか。この記念碑の撤去を求めたのは「そよ風」というグループです。メンバーはそれなりに、きちんとした社会人、企業家だったり、それなりの職業に就いている方々です。今の日本の雰囲気として、「朝鮮人はけしからん」とか、「中国人は出ていけ」みたいなことを言っている人たちは、ちょうど私たちの世代が多い。戦後復興から立ち上がった人々の後の世代、つまり日本の高度成長期に社会に出ていてバブルを経験した。それに

G…今日日本人が、真の歴史を知る転換点を目撃しているのかもしれない。

H…日本国内にある慰安婦や朝鮮半島出身労働者に関する碑や像も、これに続いてほしいです。うそのモニュメントは、日本に必要ありません。

小山…群馬大学の藤井正希准教授。今回のケースが全国の追悼碑に影響する可能性も懸念している。

藤井…意図的ではないにしろ、そういう人たちの主張を助長して喜ばせるような、そういう動きを県が取ってしまった。今回そこが大きな、私は禍根を残すと、それは思っています。

日下部…何かの意図を持って抗議をすれば、そこは論争の対象になっちゃう。つまり行政としては「公平性を保てない」と言っていて、全て群馬の今回のようなケースになつてしまふ。

小山…当事者の証言を聞いてきた矢中さん。まだまだ努力が足りなかったと、自責の念に駆られている。日下部…いろんな調査を積み重ね

乗って非常に豊かなアジアのリーダーとしての日本、そういう思いが染みついてきた、ちょうど60歳から70歳ぐらいの人たちの中で、急激に右翼的な排他的な思想が広まっていることは確かです。日本はアジアの盟主として引張っていくのだと当たり前のようになっている人たちが、90年代に入っている分野では韓国に抜かれ、2000年代にGDPで中国に抜かれ、こういった現実を受け止められない人々たちなのです。そういう人たちが「何で韓国に」「何で中国に」「あいつらは、日本人をだましているんだ」とか「日本から盗んだんだ」とか「何か汚い手を使ったんだ」と思っている。「じゃなきゃ、日本がこんなになるわけない」と思っている。大学時代の友達の中にも「おまえ、そんな考え方になっちゃってるの」という人はいます。そういう時代になつてきているというのが、今、肌で感じている現実です。

僕がなぜ記者として朝鮮半島と向き合ってきたのか。そして記者、日下部正樹を構成する中で朝鮮半島というものがいかに大きい存在で

あるかを、少しでも分かっていたなければと思います。皆さんは皆さんで違う考え方があり、日本人の若い世代は柔軟に韓国文化を受け入れています。

僕はこの前、ノーベル文学賞を韓江さんが取って、「わー、よかった」と思いました。早速本屋さんに行ったらもう売り切れで、ようやく昨日、日吉の本屋に平積みになっていたので、買ってきました。良いものは良い、悪いものは悪いと、ち

ゃんと言える人間でいたいと思っています。20分のVTRを見ていただいて、何か考えていただければ、それだけで幸せです。ありがとうございます。

最後に一つだけ。私の番組「報道特集」の編集長と、もう1人ディレクター、2人ともこの奨学会から奨学金を受けていました。うちの番組にはあなたたちの先輩がいます。

回質疑応答

問 今後、ますます韓国、朝鮮半島に限らず、さまざまな東南アジアからの移民の人が来ると思うのです。どういうふうな日本社会の一員、要素になっていくと考えていますか？

答 とにかく、民族によって不条理な壁にぶつからないようにすることが僕たちこの社会の責務で、そういうことを排していくべきだと思います。その不条理の一つの要因が民族であってはならない。先ほども言いましたが、日本はメンバーズオンリーみたいなところがあるのではないで

すか。それはいやだなと思っています。同じ根っこである、ブラジルに行った人、アメリカに行った人が、何でもこまめに日本人から無視されるのではありませんか。「同じ民族ですね」と手を握り合うかはさておき、新しい我々の社会で暮らす人たちに、いつまでもたつても垣根を作ってしまうのではないかと気がします。民族に誇りを持つとか、民族を捨てるのか、最終的には個人に頼られるのだけど、その民族という理由で不条理さを醸し出すような社会では、これから日本は生きながらえていけないと思います。

問 群馬の碑のことは知っていたのですが、VTRで初めて見て、同じ国の中で同じ教育を受けてきたのに、何でもこまめに垣根を作ってしまうのか、疑問に思いました。私個人は日本の歴史教育が根幹にあるかなと考

えていたのですが、その点についてお聞きしたいのと、今後私たち若い世代がこの溝を埋めていく、もしくは歴史教育でどんな風に認識してお互いに良い発展をしていくか、ヒントやアドバイスがありましたらお

聞きたいと思っています。

答 僕も全然分かりません。感情的に「何で日本人ってこんなになっちゃったのだろう」「潔く認めればいいじゃない」と思っています。今の日本人の若い人たちに責任は全くないわけだから、それを無理やり「強制連行だ、謝れ」、これは駄目ですよ。しかし無知であって良いのかということですね。

そういう意味で教育は大切だろうけれども、今やもう「日本は特別な国家である」みたいな教科書が検定に通ってしまう時代になってきている。それは逆に言うと、日本人の自信のなさの表れだと思ってしまうが、メディア、報道としては「それは違うじゃないか」と言い続けるしかないです。誰でも自分のやましい過去は認めたくない。でも国家がそれをやって良いのか、と。

日本は、まずいと思った資料を全部焼いているのです。市ヶ谷にあった陸軍も2週間ぐらいかけて、とにかくマッカーサーが来るまでに全部焼いてしまえということ。慰安婦の問題から何から全部そうで

す。それで今の政治家や官僚たちが何を言うかといったら、「資料が見当たりません」です。そんな情けないことはない。資料は幾らでもあるのです。探す気がないだけです。

「そよ風」というグループは「群馬の森」の慰霊碑を撤去させました。次の目標は両国の横綱町にある関東大震災の慰霊碑です。あれを撤去するのが彼らの次の目標です。小池百合子都知事は、もう半分ぐらい「そよ風」の考え方に共鳴している部分がある。我々はそこへきちんと取材しようと思っていま

すし、いろんな意味で若い人にそういうことがあったことを、教育で教えてない部分も含めてメディアが伝える意味、重要性はあると思います。

も多い。

ただ東京外国語大学のように香港の民主化運動に関連して映画祭やシンポジウムを行ったりしているところもあります。自分が疑問に持っているようなテーマのシンポジウムが、今はまだ学内に残っているでしょう。皆さんも積極的に顔を出して、真剣に向き合って考えることが大切だと思います。

問 日本で生まれたから、日本の親から生まれたからという理由だけで日本人と言えるわけではない、という考えを最近持っています。自分分は日本人だ、朝鮮人だと言える要因があったら、それは何であるかについてお伺いできたらと思います。

答 逆に言うと、「私は日本人だから、すごいんだ」という人はほとんど増えているでしょう。例えば「私はお寿司を握らせたら世界一だ」とか、陶芸品だったらすごいとか、学問ができるのか、そういうのを自慢するのではなくて、日本人であることとぐらいいいか自慢できるものがないような日本人が増えている気がし

ます。まずそこが寂しいなと思います。

日本人だとか、朝鮮半島にルーツを持つとかいう話は、不条理な壁がなければ互いに言う必要はないでしょう。ただし、歴史的な認識は絶対必要だと思うのです。なぜアメリカにアイルランド人がこれだけ多いのか、そういうことは知っていて損ではない。イギリスの統治の中で、アイルランドでジャガイモが採れなくなってしまったとか、いろんな意味でどんどん出ていった経緯もある。そういう認識は常識としてあったほうがいい。だからといって、俺は日本人だからどうのこうの、在日だからどうのこうのという機会が、誇りに思うだけなら良いけれど、変な壁になってしまったら駄目だと思うので、その兼ね合いを、どう皆さんに説明したら良いか、僕だって分からないです。

偶然僕は日本人として生まれて、父に「先祖は何だった」と聞いて、父は「先祖は農家だし、江戸時代から先は遊楽ないし、単に日本人として生まれただけで、それは威張ることでも何でもありません。日本

という国家、日本が戦後復興したストーリーについては、僕はすごいと思うけれど、それが僕の自慢話になるはずもない。知っていることは必要だけど、自分に引き寄せて、それだけで威張ることは違う気がします。知識は知識で必要だけれども、それによって自分を規定するものにはあまりならないのではないのでしょうか。自分を規定するのは個人がやったことであって、その上で日本人としての自分を、いろんな要素と座標軸の中で「自分はこうだ」と言うなら良いでしょう。単に日本人であることによって自分を説明することは、難しいという気がします。